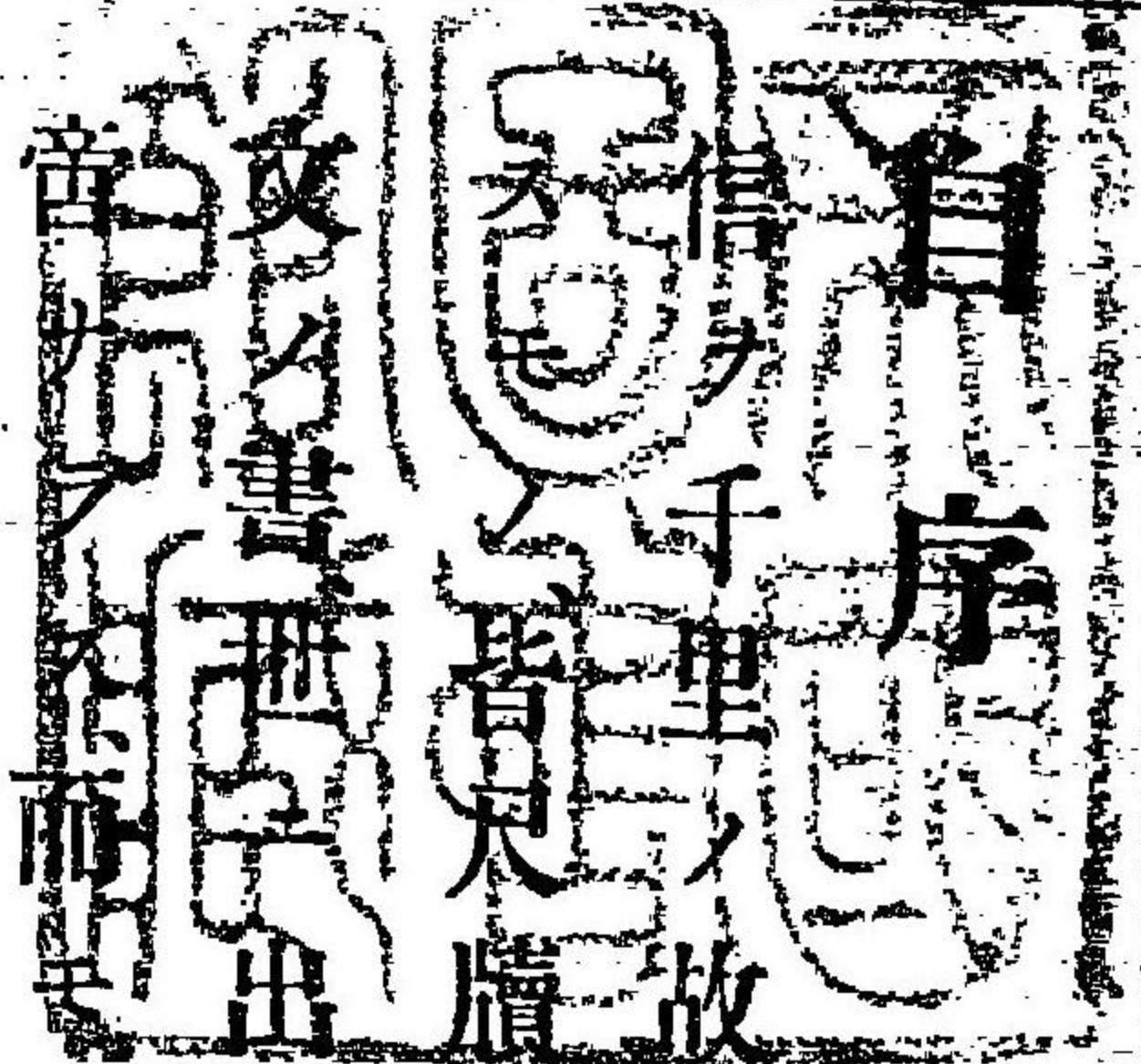


E-7

216
563

尺牘自修



信ヲ千里ノ故山ニ通シ、意ヲ萬里ノ海外ニ齎ラ
 音ノ書冊ヲ出ツルモノ夥シク、轉タ汗牛充棟モ
 スルモノ鮮ク、殊ニ之レカ獨修ニ便スルモノ幾
 ント希レナリ、余之レヲ思フ、久矣、曾テ一書ヲ
 草シ、近郷ノ子弟ニ示ス、頃口ハ復タ來テ上梓セ
 シコトヲ求ム、乃チ稿ヲ筐底ニ探リ、遂ニ世ニ公



ニセリ、余輩淺學不文、素ヨリ完全ノ篇ヲ得スト
雖、江湖初學者ノ覽テ以テ裨補スルアラバ、抑
亦タ無二ノ幸榮ノミ、敢テ一言ヲ卷首ニ述フト
云爾、

辛丑明治春寒ノ夕

猶水堀田 靈識

凡例

- 一 本書ノ目的ハ尺牘文ノ初學者ヲシテ行餘ノ自修ニ便セシメントスルニ在リ
- 一 本書ハ通俗實用ニ應スルノ意ニ出テタルヲ以テ專ハラ簡易ヲ旨トシ務メテ之レカ速成ヲ期シタリ
- 一 本書ハ五段ヨリ組成スヘキ類語ヲ各段ニ分載シ、順次之レヲ編列セシメテ以テ一篇ノ文ヲ作サシムルノ用ニ供セリ
- 一 本書ハ一ノ稽古本タルヲ以テ就中第四款

用語ノ如キ亦タ其一斑ヲ示スニ過キス若夫レ全豹ヲ得ントセハ世自ラ多數ノ著アリ、宜シク就テ見ルヘシ

明治三十四年二月下浣。

編者識

尺牘自修目次

緒言	一	頁
第一章 作例	二	頁
第二章 類語	八	頁
第一款 簡端用語	八	頁
第一項 往信ノ部	八	頁
第二項 返信ノ部	九	頁
第三項 不識ノ部	九	頁
第二款 第二段用語	十	頁
第一項 時令	十	頁
第一 春ノ部	十	頁
第二 夏ノ部	十一	頁

第三	秋ノ部	十一頁
第四	冬ノ部	十二頁
第二項	訪問	十三頁
第三款	第三段用語	十三頁
第四款	第四段用語	十四頁
第一項	特例 (年始狀)	十四頁
	附郵便端書文例	十五頁
第二項	普通例文	十六頁
第五款	第五段結尾用語	三十四頁
第七項	往信ノ部	三十四頁
第二項	返信ノ部	三十五頁
第三章	雜部	三十五頁

第一款	敬稱	三十六頁
第二款	封書表記	三十七頁
第三款	追書	三十八頁
第四款	書體	三十九頁
	以上	

尺牘自修目次終

尺牘自修

猶水堀田 巖編

緒言

凡ソ、尺牘文ノ作例ハ、一様ナラスト雖モ、余輩ハ先ツ之ヲ五
 段ニ分ツ、其第一段ハ簡端ニシテ即手紙ノ書キ始メナリ、第二
 段ニ先方ノ安否ヲ訪ヒ、第二段ニ自家ノ動止ヲ報告シ、第四段ニ
 至テ用事ヲ叙ベ、第五段ハ結尾ニシテ全文ノ結末ヲ告クルモノ
 トス

上來述ブルトコロニ因リ「書籍ノ買入ヲ頼ム文」ヲ以テ之レカ作

例ヲ第一章ニ示サン

第一章 作 例

(其 一)

○書籍ノ買入ヲ頼ム文

寸楮拜呈致候

是レ第一段簡端ニシテ手紙ノ書キ始メナリ、而シテ此簡端ハ時ニ或ハ、時令ヲ以テ代フルコトアリ、又年始狀(第二例)ノ如キ特別ノ文辭ヲ用ユルアリ、或ハ全ク之レヲ省クコトアリ、或ハ前畧、文畧等ノ文辭ヲ冠シ、直ニ用事(第四段)ヲ述ブルコトアリ、元ヨリ

一定ナラスト雖モ、長上ニ呈スヘキ文書ニハ可成省畧セサルヲ可トス

時下薄暑之砌ニ候處、益々御安寧奉恭賀候

是レ第二段ニシテ、先キノ安否ヲ尋タルモノナリ、而シテ冒頭ノ時令ハ必スシモ書クヲ要セサレ用多クハ此例ナリ、

隨テ拙家一同無事消光罷在候間、憚ナガラ御休神下サルヘク候、

是レ第三段ニシテ、即チ自家ノ起居ヲ告ケ、併セテ先方ノ安心ヲ乞ヒタルモノナリ、

陳者、昨今新聞紙上、好評ヲ博シ候、米國文明史ハ是非左右ニ備へ、通覽致度、即代金遞送費共、爲替券ヲ以テ、差進候條、御手數ナガラ、御求メ御送本被成下度、右御依頼申上候、

是レ第四段ニシテ、所謂、本篇ノ主眼タル用事ヲ速ヘタルモノナリ、年始狀ノ如キ多クハ此段ノ要ナキモノトス、

先ハ取急キ要用ノミ匆々敬具、

是レ第五段ニ當ル結尾ニシテ、手紙ノ書終リヲ示シタルモノナリ以上ハ其第一作例ナリ、更ラニ年賀狀ノ例ヲ文セシ、

(其 二)

○年始ノ文

新年之嘉儀、日出度申納候、

是レ、前已ニ述ヘタル如ク、第一段ニ代ルヘキ、一種特殊ノ文例ニシテ、年首狀ニ限レリ、

先以高堂御揃益々御機嫌克、御超歳被爲遊奉恐悦候、

是レ第二段ニシテ先方ニ於テ恭シク新年ヲ迎ヘタルヲ祝セシナリ、

次ニ弊舍無事、幸ヒニ加齡仕候間、乍憚御休神下サルヘク候、

是レ第三段ニシテ自分モ亦々新タ二年ヲ迎ヘタルヲ報道セシナリ、第四段ニ叙ヘキモノ年始狀ニ於テ少レナリ、只ダ遠隔疎音ノ場合ニ在テ、左ノ如ク記スル事アリ、

御序之節、某殿并姉上ヘ宜シク御致聲下サレ度、且ツ土地遠隔トハ申シナカラ、毎ニ御疎音之段、伏シテ奉鳴謝候、

參考トシテ示スコト然リ、

右年首ノ御祝詞申上度、餘ハ春和芳草ノ時ヲ期シ候、謹言、

是レ第五段結尾ニシテ茲ニ作例ヲ了レリ、方今郵便端書ヲ以テ、年賀ヲ速フルコト、頗ル流行ス、蓋シ簡便ノ方法ト云フヘキナリ、

以上述フルトコロノ作例ニ習熟セバ、尺牘文ヲ作成スル敢テ難キニアラサルヘシ、以下各段ニ應用スヘキ必要ノ類語ヲ擇ビ、序ヲ遂ヒ順ヲ定メ以テ作文ノ料ニ供スヘシ、

第二章 類語

第一款 簡端用語

第一項 往信ノ部

一筆啓上致候、
 寸楮拜呈、
 寸書呈上、
 短葉拜呈、
 寸簡呈上、
 一簡拜呈仕候、
 寸簡呈上、
 謹ンテ無續ヲ捧ゲ候、
 度ンテ寸簡ヲ呈シ候、
 拜啓、
 拜呈、
 前畧陳者、
 文畧又手、
 前文御仁免下サルヘク候、
 飛札ヲ以テ申上候、
 (尤モ急グトキ)
 唐突ナカラ申進候、
 卒爾ナカラ貴意ヲ得候、
 早速ナカラ申込候、
 突然恐縮ナガラ得ニ貴意ニ候、

第二項 返信ノ部

御手紙拜見仕候、
 御紙狀拜見、
 御狀披見、
 芳翰拜讀、
 花墨拜誦、
 雲箋拜見、
 采雲跪キ拜受、
 玉章拜誦仕候處、
 瓊章恭ク拜讀、
 貴翰拜見、
 去ル何日付ノ御書面拜見仕候處、
 何月何日何地御投函ノ御狀、本日到着拜見致候、

第三項 不識ノ部

未ダ御目ニ掛リ申サズ候處、
 未タ貴意ヲ得ズ候得共、
 御高名ハ夙トニ承リ候モ今ニ拜顔不仕候處、
 未タ曾テ高意ニ接セス、
 掛違ヒ御面會ノ機ヲ得ス候處、
 未タ曾テ高意ニ接セス、
 未タ曾テ高意ニ接セス、

是ヨリハ却テ御面晤ノ期ヲ失ナヒ居候處、

第二二款 第二段用語

第一項 時令

第一 春ノ部

春寒之時節、

餘寒耐兼候處、

殘雪未タ解ケズ候得共、

春暖之時節、

溫暖之時節、

暄和之候、

芳草之時節、

百花野ニ滿チ、群芳地ニ布クノ候、

萬山芳ヲ競フノ節、

南枝已ニ綻ブノ節、

黃鳥谷ヲ辭スルノ候、

梅花香ヲ放ツノ砌、

早鶯經ヲ誦ニスルノ節、

花笑ヒ鳥謳フノ候、

昨今春暖融和ノ折柄、

逐日春季相進ミ候處、

鴈去ツテ燕來ルノ節、

桃櫻老ヒテ藤花春ヲ襲フノ候、

樽陶敷天氣、

梅雨ノ節、

黃梅ノ時節、

燕雀巢ヲ結ブノ候、

更衣ノ時節、

今日ハ格別暄和ニテ閉居ノ時ニ無レ之存居候處、

兔角不順、

兩三日來ハ雨天勝ニテ鬱蒸ニ堪兼候、

梅雨連日ニ亘リ鬱情御同様ニ候處、

第二 夏ノ部

殘春綠樹之節、

向暑ノ節、

薄暑ノ砌、

甚暑ノ候、

炎暑凌キ難ク候處、

炎熱殊ニ甚シク堪兼候處、

三伏ノ候、

酷暑ノ節、

城中ノ炎熱燔クガ如クニ御座候處、

炎氣堪兼候處、

第三 秋ノ部

殘暑ノ節、
 殘炎未タ退カズ候處、
 秋冷ノ砌、
 冷氣相催シ候處、
 木葉黃落ノ節、
 蟬聲秋ニ入り候處、
 百蟲叢ニ吟スルノ候、
 金風颯々ノ候、
 白露相滋候處、
 昨今漸ク凌ギ易ク相成候處、
 木葉血ニ染ムノ候、
 四山錦ヲ織成スノ節、
 四隣何トナク物淋シキ時節ニ相覺ヘ候處、
 梧葉秋聲ヲ催シ候處、
 觀月之節、
 重陽之節、
 秋菊香ニ誇ルノ節、
 向寒ノ節、

第四 冬之部

寒氣次第ニ相進ミ候處、
 寒氣甚シク相募リ候得共、
 甚寒ノ砌、
 冱寒ノ候、
 嚴寒ノ時節、
 水晶地ニ碎クノ候、
 瑞雪豐ヲ報シ來リ候處、
 寒威凜列ノ時節、
 寒帝ノ威、頗ル酷シク候處、
 最早年内餘日モ之レナク候ヘ共、

第二項 訪問

益々御機嫌克御坐ナサレ恭賀仕候、
 彌々御安全奉ニ大賀ニ候、
 先以高堂益々御清福ニ涉ラセラレ奉ニ恭悦ニ候、
 高厦愈御祉福慶快ノ至ニ奉レ存候、
 御全家倍々御清勝奉ニ拜喜ニ候、
 彌々御安穆奉ニ南山ニ候、
 益々御清寧恭賀々々、
 愈々御清康南壽仕候、
 倍々御清榮欣喜斜ナラス候、
 御清適、
 御多祥、
 御壯健、
 御勇勝、
 御佳適、
 益々御勉強之段至賀々々、
 彌々御安泰拵賀仕候、

第三款 第三段用語

次キニ私方無事ニ暮居候間憚リナカラ御安心下サレタク候、

シタガツテ 隨而弊舎一同變リナク暮居候條乍レ憚御休意下サルヘク候、
 降テ茅屋打揃ヒ無事消光罷在候間他事ナガラ御安休下サルヘク候、
 續テ拙家亦タ無異起居候マ、御放神下サレ度候、
 次テ私方渾テ故ノ如ク起居罷在候間、御放念ヲ祈リ候、
 當地一統恙ナク打過キ候條万々御懸念被レ下間敷候、
 蝸居依然消光候間尊意易御思召被レ成レ降度候、

第四款 第四段用語

第一項 特例

年始狀

年甫之御慶、目出度申納候、先以御全家、益御多福、御重歲遊バサレ奉ニ恭賀候、

拙家亦幸ニ、無事越年仕候間、乍レ憚御休神下サルヘク候、右御祝詞申上度、此ノ如
 ニ御座候、謹白、

全返章

新正ノ御賀、千禧万福、御迎年之段、奉ニ恐悦候、次ニ私方一同、例ニ依テ加齡
 仕候間、御放念是レ祈リ候、右御答申上度、餘ハ閑和ノ時ヲ期シ候、拜復、

附

郵便端書面記載文例

謹賀ニ新年、 恭賀ニ新正、 虔賀ニ新歲、
 恭賀ニ新年、併禱ニ高堂之万福、 恭賀ニ新禧、併謝ニ平素之疎信、
 恭シク新年ヲ賀シ、併セテ倍舊ノ厚誼ヲ祈ル、

第二項 普通文例

花見誘引ノ文

過日途中申上置候次第モ有之候處、明日ハ休暇旁、草花園へ御伴仕度、御都合如何ニ候哉、

全 答

是ヨリ伺度心得居候折柄、先鞭ノ御狀ニ接シ、恐縮仕候、即十時ヲ期シ參上致スヘク万拜顔ニ譲リ候、

暑 中 見 舞

今年ノ如キ大暑ハ、父老モ曾テ覺ヘサル所ニ有之由、驚入候、此品些少ナカラ、

到來ニ任セ、進呈仕候、御笑留下サレ候ハ、本懐ニ存シ候、

全 答

仰ノ如ク昨今ノ炎熱ハ祖母等モ覺エヌ趣、御障モ御座ナク、大慶ニ存候、珍重ノ御品、澤山ニ御惠ミ下サレ恐入り御禮筆紙ニ盡シ兼候、右御報マテ、

寒 中 見 舞

両三日來、寒氣殊ニ甚シク候折柄、奥羽地方ハ、雪類レ等モ夥シカリシ由、近京ノ諸縣ニ、此災害ナキハ、天幸ト申ス外之レナク候、別包ハ兵庫ノ女牛肉ニ付少カ御配分申上候條、御莞味下サレ度候、

全 答

貴諭ノ如ク、北地ハ非常ノ事ニテ驚入候、本日ハ忽御尋ヲ被リ、且何ヨリノ品、頂戴難レ有、此品有合ニ任セ差進候、何レ參堂御禮厚ク可ニ申上候、

歳暮

年内余日モ無レ之、嘸御多用之義ト奉察候、隨テ輕少ナカラ、交魚一籠、進上仕候、速カニ御厨下ニ命セラレ度、余ハ一陽來復ノ時ヲ待テ候、

産見舞

御内實、昨夕御安産、殊ニ男子御出生ノ由、大慶重疊奉ニ恭賀候、何レ參館御歡可ニ申上候へ共、取敢ヘス微品進呈、右御祝詞申述べ候、

全答

昨荆妻分身ニ付、珍重ノ御品ヲ以テ、御祝ヒ降サレ、難レ有幸ヒ平産ニテ、母子共健カニ肥立候、他事ナガラ御休慮ヲ祈リ候、右御答禮マデ、

病氣見舞

會大人様御事、先達ヨリ御風氣ノ由、格別ノ儀モ無レ之様承リ居候處、未タ御全快ナキ趣、昨今ノ御容体如何ニ候哉、嘸御心配ノ事ト奉ニ恐察候、隨テ蒸菓子一折呈上、聊カ御見舞ノ意ヲ表シ度、御薦下サレ候ハ、本望之レニ過キズ候、

全答

老父、日ヲ重子候不快ナルヨリ、御見舞狀ヲ寄セラレ、殊トニ珍品御心ニ掛ケサセラレ、誠ニ恐入候、幸ヒ二三日前ヨリ、快方ニ赴キ候間、御放神下サルヘク病父ヨリモ宜シク申上候様、申付ケニ御座候、

開塵披露

豫テ申上候通り、來何日彌々開店、農具類一切販賣、精々勉強、廉價ニ差上候間、何卒御引立、御懇意ノ諸君へモ御吹聴ノ程、伏シテ奉レ希候、

全 答

今般、農具販賣業、御開店ノ由奉ニ大賀候、恰モ御地ハ同業者モ無レ之、一手販賣ノ義ハ、至極思附ノ事ト賢察仕候、且ツ諸方へノ御周旋等ハ、及ハスナカラ御引受可ニ申上、併シ將來ノ御繁昌、今ヨリ期スル所ロニ有レ之候、

任官ヲ賀ス

今回御奉職ノ由承リ、欣抃斜ナラス候、蓋シ平生ノ御勉學、茲ニ顯レ候義ト、

全 答

奉ニ感佩候、尙ホ任務御精勤、後日ノ榮進奉レ待候、

不肖此程任官ニ付特ニ御狀ヲ辱フシ縷々御示諭ノ段、難レ有奉レ存候、奉務中ハ百事注意ヲ失ハス、専心ニ勤勉可レ仕、乍レ憚御安慮ヲ祈リ候、

旅行告知

先達途上御咄ノ如ク、來何日京坂地方へ、商用旅行致候ニ付テハ、彼地相當ノ御用モ有レ之候ハ、何ナリトモ御申聞ケ下サレ度、且ツ留守中ハ、老幼ノ者ノミ残り候義ニ付、萬端よろしく御依頼申上候、

全 答

近日京坂地方へ、御旅立之趣奉賀候、御不在中ハ御心配ナク御任セ下サレ度、且ツ願用等ハ、御發足ノ前日マテニ、參上万々可申上、此品粗末ナカラ僅カニ程儀ヲ表シ候、

火事見舞

今曉ハ不慮ノ出火ニテ、御類焼之由、驚入候、併シ御家内別條ナク御立退御住居ノ外ハ無難之趣、少シク安心仕リ候、粗酒一本、御見舞ノ印マテニ差上候、御不自由ノ品等モ有レ之ハ、御遠慮ナク御申附ケ可被降候、

全答

今朝ハ慮外ノ珍事ニ取込中、忽マチ御見舞ノ御人御遣ハサレ、難有殊ニ銘酒一樽、御惠下サレ何共恐縮ノ至リニ奉存候、取敢ヘス御禮マデ如斯ニ候、

新婚ヲ賀ス

御嬢様御儀、夙締ノ御良縁、無滞御婚禮相調ヒ、幾久シク目出度御儀ト奉慶賀候、依レ之眞綿一臺、御祝儀ノ驗マテニ呈上仕候、

全答

長男誰事、今般某氏ノ媒酌ニテ某家ノ何女ト夙縁有レ之、昨夕粗式相濟シ候處、早速ノ御狀加フルニ御丁寧ノ御祝儀ヲ賜ハリ、御禮筆鋒ニ盡クシ兼候何レ參趨萬々御答可申述取敢ヘス御報マデ、

長壽ヲ賀ス

御祖父様御事、鶴齡已ニ古稀ニ渡ラセラレ候段奉恭賀候、隨テ龜の年一「ダース」

呈上仕候、御笑味下サレ候ハ、難レ有奉レ存候、

全 答

祖父儀、年恰モ嘉喜ヲ呈シ候ニ付明日内宴仕度、爲メニ御光臨御願候處、却ツテ御祝儀戴キ恐入候、何レ御枉駕ノ時ヲ待テ萬々御禮可ニ申述ニ取急キ御答書マデ、

例 祭ニ人ヲ招ク

來何日ハ、當村鎮守ノ例祭ニテ、山車等ノ催シモ有之候間、御子供衆御伴ヒ御光來ノ程、奉レ待候、

商 品ノ着荷ヲ知ヲス

今般郵船ニテ、國産何品、取寄セ候間、御望ミノ人モ有之候ハ、御周旋被下レ成

度、御報旁々御依頼申上候、

至 急 人ヲ招ク

急々拜顔ヲ得度候處、御多用中恐入候得共、此章御披見次第、直チニ御光來被下度候、

頼 事ヲ催促スル

過般御依頼申上置候件、何卒至急相連ビ候様、御盡力被下度、勝手ナカラ右重子テ御願申上候、

全 答

御來書ノ件ハ、都合克ク相連ビ、已ニ時日郵書差上置候ニ付、行違ヒ御了知ノ事ト

奉_レ察候、

借家_{シヤクカチ}ヲ知_シラス

先頃_{サキゴロ}御談示_{カクナク}相成候家屋ノ義、商法向_{カキ}ニハ至極適當_{テキトク}ニテ、且家税_{カツカゼイ}モ廉_{レン}ニ付、御一見_{イチミ}ノ上、御取極_{トリキ}メ相成候テハ如何ニ候哉、

全 答_{コタヘ}

貴命_{キメイ}ニ依_ヨリ昨日_{シュツケン}實驗_{ケンブ}候處、豫望_{ヨバシ}ニ叶_{カナ}ヒ候ニ付直ニ決定仕候間、家主_{カウ}ヘ可然_{カニ}御通下_トサレ度、御依頼_{イニ}ヲ重_{オモ}ネ候、

人_{ヒト}ヲ招_{マテ}ク

少々_{シヨウシヤウ}御面議_{メンギ}申度候間、來何日何時頃_{キナ}マテニ、拙宅_{シヅメ}へ御出被_{イデ}下度待_{マテ}上候、

全 答_{コタヘ}

折角_{セツカク}ノ御招狀_{オウシヤウ}ニ候處、當日_{ツギ}差支_{サシ}有_アレ之、參上_{サンジョウ}致兼候間、日限_{ヒリミ}御次定更_{ジテイカ}ラニ御申越_{オウシヨジ}ノ程願_{ネガ}上候、

招待_{シヨウタイ}ヲ斷_{コトリ}ル

來何日_{レイノツク}、令息_{レイシク}御誕辰_{タマシジ}相當_{タウシヤウ}ニ付、御寵招_{オウジュウ}ヲ辱_{カダシ}ク致候處、急_{キツ}ニ米國_{ベイコク}出向_{シュツコウ}ノ公命_{コウメイ}ニ接_{ケツ}シ直_ナチニ發程_{ハツチ}候_{シユツダツ}ヨリ當日_{ツギ}參班_{サンバン}仕兼候條、不_フ惡_ク御承引_{オウシヨウイン}ヲ祈_{ネガ}リ候、

金談_{キンダン}ヲ頼_{タノ}ム

兼_{カミ}テ御咄_{オウバツ}モ有_アレ之候處、今回_{コンゴ}商業上_{ケイギヤウ}必要_{ヒツヨク}ヲ生_{セツ}シ候間、一百圓_{ヒツヨク}程御調達_{チヨウダツ}被_{イデ}成下度、御依頼_{イニ}申上候、

全答

御來示ノ趣、早速先方へ申内レ候處、差支無レ之候條、夕刻御人被下度、右御報ニ及ビ候、

地所ノ賣却ヲ頼ム

先日御咄致置候地所、煽々賣却ノ事ニ決シ候ニ附テハ、御心當モ有之哉ニ承リ候條、可然御幹施被下度願上候、

全答

過日御依頼ノ賣地本日幸ヒ希望ノ者有レ之、來宅中ニ候間、即刻御來車奉レ待候、

他出ノ見合ヲ頼ム

御依頼申度義有レ之、明朝推參候間、暫時御在宿之程、懇願仕候、萬一御差支モ有レ之候ハ、御一報下サレ度候、

轉居ヲ報ス

去何日何町何番地へ移轉致候間、自然御通行ノ事モ有レ之候ハ、御立寄下サルヘク候、

約束ヲ斷ル

御約束ノ何々事件ニ付テハ、少々故障相起リ、微力ニ及ヒ兼候間、此度ハ御斷申上候、御違約ノ段御原恕是祈候、

學課問合せ

近日入學致度候間、御手数ナガラ學課并諸規則、其他參考ト爲ルヘキ點等、御示シ被レ下度願上候、

人ニ書物ヲ貸ス

過日御覽ニ入レ候、米國史第二編、此程出京ノ節、購歸候ニ付一見ノ上、差進候間、緩々御樂ミ被下度候、

全答

御上京之砌、御求相成候趣ヲ以テ、第二編米國史、態々御遣シ被レ降、御親切ノ段奉ニ鳴謝一候、

集會ヲ報ス

來何日何町某方ニ於テ、何講會相開候間、會費何錢御持參御出席下サレ度、右御案内申上候、

出入商人ヲ招ク

早急注文致度品有レ之候間、今明日中御苦勞ナガラ、御出テ下サレ度候也、

旅中宿元へ寄ス

昨日何地へ着、直チニ瀛車ニ搭シ、此地へ宿シ候間、安神下サルヘク、委細次便ニ盡シ申スヘク候、

縁組知ラセ

過日協議申上候、縁談一條、本日結納致候間、今夕粗酒献シ度、御來駕下サレ候ハ

幸甚々々、

醫師ノ來診ヲ乞フ

老母義、昨夜ヨリ急ニ差込ミ有レ之殆ント困難致居候間、御來診ヲ煩ハシ度、車夫ヲシテ御迎ヒ申上候、

事件ノ落着ヲ報ス

久シク御心配相掛ケ候一條、此程漸ク示談行届キ、諸事相濟候間、御安意被レ下度、右御報旁御禮申上候、

破談ヲ報知ス

御配慮相成候一件、彌々出訴ニ及フヘクニ付テハ御面談申度義有レ之候間、失敬ナ

カラ急速御來車奉待候、

傭人ヲ頼ム

植付ニ際シ、人少ニテ差支居候間、何才位ノ者兩三名、至急御世話被下度、尤モ給金ノ義ハ大畧御取極メ御遣シ被下度候、

病人ヲ報知スル

老母義先達ヨリ、少々不快ニ候處、昨夜ヨリ殊ノ外惡シク相見候條、取急御知ラセ申上候、

病死ヲ報ス

家嚴事、先頃ヨリ不快ニ候處、平素強壯故、差シタル事モ有レ之間敷ト、油斷致居

候折柄、俄カニ差込ミ今曉ノ露ト共ニ消果テ候モ今更殘念ニ御座候取敢ヘス御報ニ及ヒ候、

弔詞

御親父様御事、俄然今曉御長逝ノ趣御報ニ接シ驚入り、御愁傷ノ段奉ニ恐察一候、別包些少ナカラ、御靈前へ御供へ被成下度、何レ參堂萬々可ニ申述、取急キ弔詞ヲ呈シ候、

第五款 第五段結尾用語

第一項 往信ノ部

頓首、

謹言、

再拜、

恐惶謹言、

謹具、

敬具、

拜具、
不宣、
馳筆、

叩頭、
不備、
匆々、

稽首、
不盡、
草卒不既、

拜言、
不一、
拜白、

敬白、
不罄、

不具、
不乙、

第二項 返信ノ部

拜復、
貴酬、

拜答、

復啓、

敬答、

謹答、

答具、

右御答マデ如レ斯御座候、匆々、
先ハ取急キ御報マデ匆々、
取急キ御返事ノミ敢テ他事ニ涉ラス候、草々、

第三章 雜部

第一款 敬稱

手紙ノ末ニハ、年號月日ヲ書キ、次ニ自己ノ姓名ヲ署シ、次ニ先方ノ宛名ヲ記スヲ以テ、了リト爲ス、而シテ宛名ノ下ニハ、必ラス敬稱ヲ署スヘキモノナリ、今二ノ例ヲ左ニ示サン、

何 某 様 (長上ニ對スルノ例)

何 誰 殿 (同等班若クハ其以下ニ對スル場合)

何 某 君 (同 前)

此外勅任以上ノ人ニ對シテハ閣下ト書スヘク、又タ或ル専門家ニ對シ、特ニ敬稱ヲ付スル場合アリ、

名醫ニ對シ「某國手貴下」ト署シ、書ノ名人ニ向テ、「某畫伯貴下」ト書シ、其他某詩仙(詩人)某宗匠(俳家)ノ如キ皆之レナリ、

第二款 封書ノ表記

尺牘ハ、郵便端書、若クハ口上書ノ外、總ベテ封緘スルヲ例トス、又畧封ト稱シ、別ニ封筒ヲ用ヒサルモノアリト雖モ、是等ハ決シテ長上ニ對シ爲スヘキコトニアラス、左ニ表記ノ一例ヲ示スヘシ、

何市郡町村番地
何 某 様 (殿)
机。 下。
何 某

今腹書スヘキ文辭ヲ舉クレハ

待史、(長上ニ)

虎皮下、

吟卓下、

机下、

案下、

坐^ザ下^カ、
 平^{ヘイ}靜^{セイ}、
 平^{ヘイ}信^{シン}、
 平^{ヘイ}要^{ヨウ}、
 要^{ヨウ}用^{ヨウ}、
 坐^ザ右^{ヨウ}、
 至^シ急^{キツ}、
 急^{キツ}信^{シン}、
 執^{シツ}事^ジ御^ギ中^{チュウ}（執^{シツ}事^ジア^{アル}ル）
 要^{ヨウ}信^{シン}、
 右^{ミダ}ノ外^{ガイ}、近^{キン}來^{ライ}親^{シン}展^{テン}、
 親^{シン}折^{セツ}、親^{シン}披^ヒ、
 親^{シン}剪^{ケン}、直^{ヂキ}展^{テン}、等^{トウ}ノ文^{モン}辭^ジヲ書^{カク}スルヲ流^{リウ}行^{コウ}セリ、是^{コト}レ
 專^{セン}ハラ官^{カン}署^{ショ}、銀^{ギン}行^{コウ}、會^{カイ}社^{シャ}等^{トウ}公^{コウ}ケノ役^{ヤク}務^ムヲ取^{トリ}扱^{アツ}フヘキ人^{ジン}ニ對^{タイ}シ、役^{ヤク}務^ム上^{ジョウ}往^{ワウ}復^{フク}スル場^{バウ}
 合^{カフ}ニ適^{テイ}用^{ヨウ}スヘクシテ、一^{イツ}私^シ人^{ジン}間^{カン}ノ信^{シン}書^{ショ}ニ準^{ジュン}用^{ヨウ}スヘキモノニアラサルヲ信^{シン}ス、何^{ナニ}ント
 ナレバ、事^ジニ公^{コウ}ケノ役^{ヤク}務^ムニ從^{ジュウ}フモノ其^{コノ}人^{ジン}在^{アイ}ラサルハ代^{ダイ}理^リ者^{シャ}之^ノ開^{クワイ}緘^{ケン}スヘキヲ以^{ヨリ}テ、
 其^{コノ}之^ノレヲ爲^{タシ}サ、ラシメント欲^{ヨク}セハ、勢^{セイ}ヒ親^{シン}展^{テン}、其^{コノ}他^トノ文^{モン}字^ジヲ特^{トク}筆^{ヒツ}スルノ必^{ヒツ}要^{ヨウ}アルモ
 ノナレハナリ、

第三款

追書

尺牘ハ、本^{ホン}文^{モン}ニ盡^{ケン}ス克^{カク}ハサルカ、若^{ニシ}クハ本^{ホン}文^{モン}ヲ書^{カク}キ終^{シュウ}リシ後^{ノチ}ニ於^テテ、發^{ハツ}覺^{カク}シタル用^{ヨウ}
 事^ジアルトキハ、追^{ツイ}書^{ショ}ト稱^{テイ}シ、宛^{アテ}名^ナノ次^ジニ書^{カク}キ繼^ツグヲ要^{ヨウ}ス、

乞フ少シク之レカ書始メノ用語ヲ左ニ示サン

- 追^{ツイ}テ、
- 追^{ツイ}白^{ハク}、
- 二^ニ白^{ハク}、
- 追^{ツイ}伸^{シン}、
- 再^{サイ}啓^{ケイ}、
- 再^{サイ}申^{シン}
- 追^{ツイ}啓^{ケイ}、
- 二^ニ申^{シン}、
- 復^{フク}伸^{シン}、
- 再^{フタ}ビ申^{シン}上^{ジョウ}候^{コウ}、

第四款

書体

尺牘文ノ書^{カク}体^{タイ}、亦^{モト}夕^{ソク}意^イヲ注^{チュウ}ガサルヘカラス、殊^{コト}トニ長^{チヤウ}上^{ジョウ}ニ呈^{テイ}スル如^{コト}キハ、必^{カナラ}ス楷^{カイ}
 行^{ギョウ}ノ二^ニ体^{タイ}ヲ以^{ヨリ}テシ、務^{ツク}メテ鄭^{テイ}重^{チュウ}ヲ失^シハサルヲ要^{ヨウ}ス、而^{シテ}郵^{ユウ}便^{ベン}ニ付^{ツキ}スヘキ信^{シン}書^{ショ}
 ハ、又^{モト}必^{カナラ}ス楷^{カイ}行^{ギョウ}ヲ以^{ヨリ}テ字^ジ体^{タイ}讀^{ドク}ミ易^{ヨク}キ様^{サマ}、認^{シン}ムルヲ要^{ヨウ}ス、其^{コノ}同^{ドウ}班^{バン}以下^{ノチ}ニ贈^{オウ}ルヘキモ
 ノハ、行^{ギョウ}草^{ソウ}ニテ可^カナリト雖^{モト}トモ、字^ジ体^{タイ}ノ明^{メイ}瞭^{リョウ}ナルニ如^{コト}カザルナリ

尺牘自修大尾

明治三十四年八月八日印刷
明治三十四年八月九日届出

定價 金貳拾錢

千葉縣平民

編輯兼發行者 堀田正夫

下總國香取郡佐原町
佐原ノ千七百七十番地

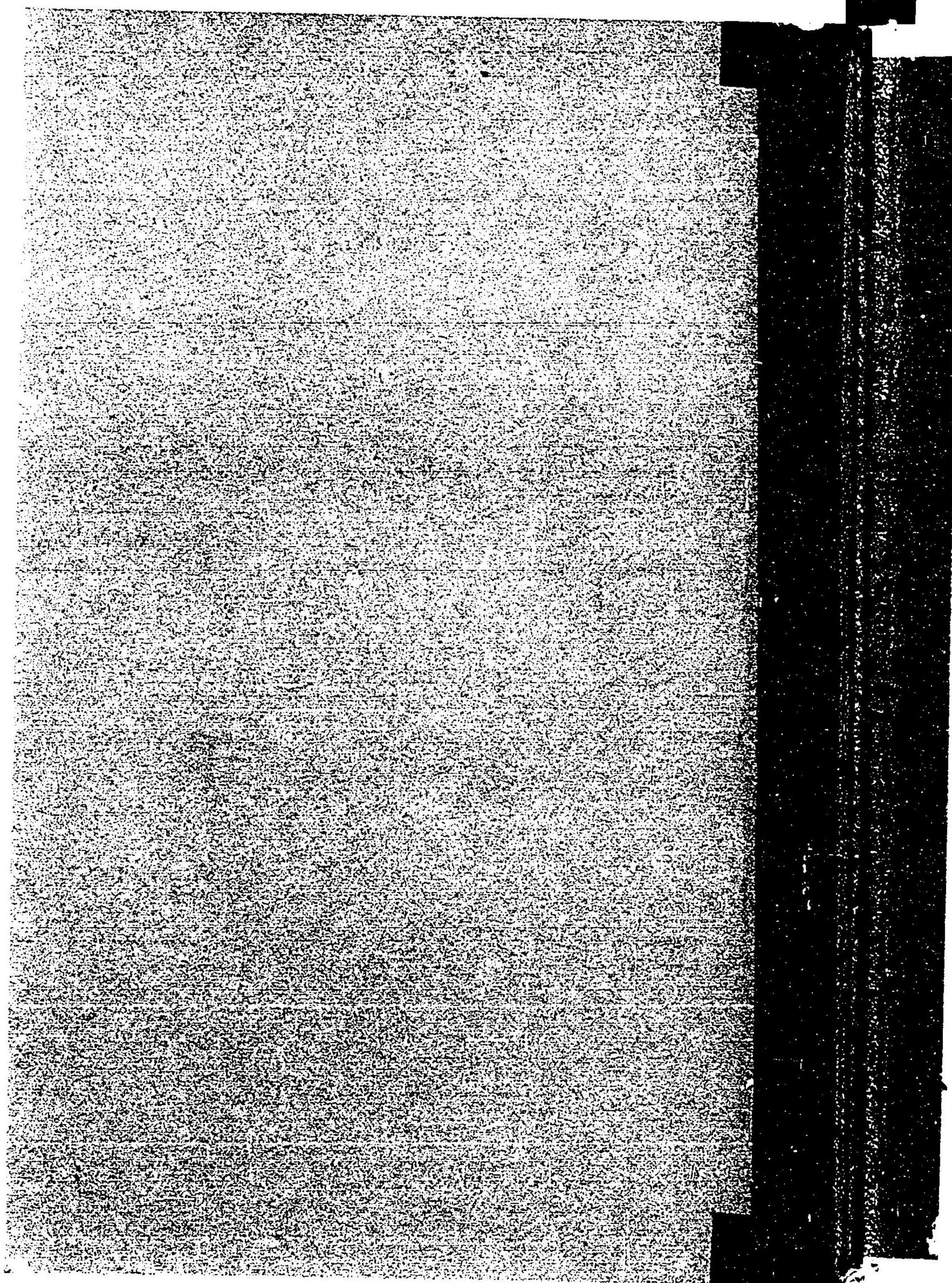
印刷者 南部昇

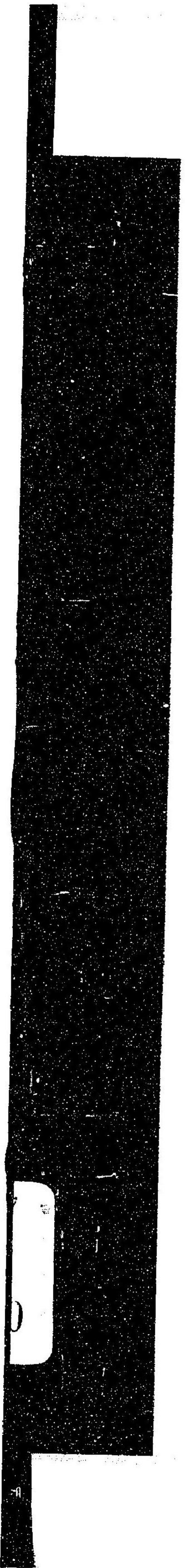
東京市赤坂區
裏町一丁目八番地

印刷所 昇 舍

東京市赤坂區
裏町一丁目八番地

E-7





尺牘自修

堀田 覽

国立国会図書館

080315-000-2

特47-750

尺牘自修

堀田 覽/編

M34

DAC-4496



特

7

